交流集会

11 月 7 日 (日)　9：30 ～ 11：00

■交流集会 5：第 6 会場　（401 会議室）

認知症をもつ患者の退院支援について

赤井信太郎（長浜赤十字病院），宮本良子（長岡赤十字病院），
大久保和実（市立豊中病院），森橋まり絵（おもて参道訪問看護ステーション）

DPC（Diagnosis Procedure Combination）の導入により、多くの急性期病院では入院期間が、短期化しつつある。その中で、認知症をもつ患者・家族が安心して退院を迎え、その後の生活を継続していくために、病院・施設・地域各々の立場でどのような支援や連携が必要なのだろうか。認知症看護認定看護師の活動と事例を通して、認知症をもつ患者の退院支援についてディスカッションしていく。

■交流集会 6：第 7 会場　（503・504 会議室）

地域で認知症サポーターになろう研修会を企画して

人見裕江（近大姫路大学），藤田敦子（近大姫路大学），小坂裕佳子（近大姫路大学），
奥平尚子（近大姫路大学），中村陽子（園田女子学園大学），田中久美子（愛媛大学）

認知症は、決して他人事ではなく、身近な病気として認識されつつある。しかし、まだ認知症について正しい理解が得られているとは言い難く、誤解や偏見が、家族の介護負担や虐待といった悲惨な事態を引き起す要因ともなっている。また、そのことが早期発見や診断、支援が遅れることによる認知症の重度化という問題にも影響しているのではないかと考えられている。認知症の人が暮らしている場所は居宅が 67％を占めているといわれている。認知症が軽度で、運動障害が少ない人が多い。地域の様々な資源の活用や住民主体のネットワーク作りなど、地域全体で支える意識や仕組みが、求められている。地域の住民一人ひとりが、認知症という病気や人について、正しく理解し、世代を超えた交流を図りながら、偏見や差別をなくしていく必要がある。そこで、地域ぐるみで認知症サポーターになろう研修会を企画した。認知症になっても安心して暮らせるまちづくりのために、ご参加のみなさまと意見交換の場づくりができればと考えています。